

北見市まちづくりパワー 支援事業地域懇談会を開催 オホーツクブロック

平成25年度 北見市まちづくりパワー支援事業地域懇談会を開催。

目的は、住民の底力を発揮し高齢者も誰もが住みよい地域ネットワークをつくる。

北見市端野自治区において北海道グループホーム協会オホーツクブロックの会員等が率いる「行方不明から安全に戻れる事を願う会」、「北見高齢者110番の家」主催の地域懇談会に、当オホーツクブロックも共催させていただいた。地域ならではのグループホームの環境だけでは理解できない部分が地域には存在し懇談会から学ぶ場面となる。認知症グループホームが地域の核として、認知症の人が安全に散歩できるまちづくりに参加することは、グループホームの運営推進会議等の



、認知症の人が安全に散歩できるまちづくりに参加することは、グループホームの運営推進会議等の

日々のコツ

とした努力も無駄ではなく、認知症の理解を広める主催者側の方向と同様に考える部分がある。

北見警察署からの講話には、平成25年6月現在の行方不明は16件と昨年の半分であり、届出前に民の方が保護する通報が増しているという。昨年の保護は20件であるが、今年はずでに40件保護しているという。



主催者側のボランティア行方不明者捜索と同時に展開する公報車による地域への捜索者情報提供から、警察への情報提供へつながり発見に至ったケースもあるという。認知症の人を預かる専門のグループホームとして、今後も地域の発展に寄与していきたい。

グループホーム 和 施設長 高橋圭三



大空と希望



NO 8

一般社団法人北海道認知症グループホーム協会
広報誌「大空と希望」 2013年8月発行
〒060-0001
札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル3F
TEL:(011)208-3320 FAX:(011)204-7312
URL http://h-gh.net

「還る」

昨

『還る』

年50歳を迎え、最近感じる事があります。それは、今までに自分のしてきた言動(善し悪しも含めて)が、今まさに自分に還って来ていると感じるのです。

多分、それは今までも意識していなかっただけで、様々な出来事を通して還ってきていたに違いないと思うのです。

若い頃は、そんな事を気にかける事なく、ひたすら真っすぐでした。過去には、会社や上司からの待遇に憤りを感じ、陰口を叩いていた小心者です。若い頃はそれでいいのだと思うのです。その経験の繰り返して物事の訳が解り、成熟してゆき、自分のしている

この意味や意義を感じる時期が来るのだと思うのです。最近、部下とのやり取りでそう感じました。彼らは私との関係で何かを感じ、成長していくのでしょうか。その中でどう感じ、どう仕事をしてゆかば、彼ら次第だと言う事を既に私は知っているのです。

私は未だ未熟です。それでも、この年齢になってそう感じるということは、何かの知らせだと肝に銘じて生きてゆくことにします。

感謝



一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会

会長 宮崎 直人

みんなで考える認知症 事例発表北海道大会in旭川 ～人とのつながりから心のつながりへ～

北

いよいよ10月5日に開催される事例発表北海道大会in旭川の開催が迫ってまいりました。当日は、認知症の事例発表、地域活動の事例をはじめ、レビー小体の小阪憲司先生に「レビー小体型認知症の診断治療の取組み」と題して基調講演をして頂き、会員事業所役職員の皆様の永年勤続表彰などを行います。また前日の懇親会には、旭山動物園の板東元園長をおよびして旭川の魅力の一端をご紹介していただき、



会員事業所の皆様との親交を深めて参りたいと思います。本大会は介護・医療従業者、利用者、家族、行政、学生、一般の方々さまざまな方々が、人とのつながりから心のつながりを大切に、事例等を通じて共に認知症について考える機会にしてまいりたいと考えております。是非たくさんの方のご参加を道北ブロック役員一同心よりお待ちしております。

大会実行委員長 森山伸広

事例発表北海道大会in旭川

日時 平成25年10月5日(土曜日)

午前9時開始～午後4時30分終了

場所 旭川トヨーホテル

旭川市7条7丁目32-10

TEL 0166-22-7575

参加費 1,000円

懇親会のご案内

大会前日10月4日(金曜日)18時より

同ホテルにて 懇親会を開催いたします。

(参加費5,000円)

大会お問い合わせ

事務局 GH和が家(清水)

TEL 0166-50-0770



今日は8月13日旭川も暑い日が続いております。この広報誌の編集にあたり沢山の方々のご協力を頂き、心より御礼申し上げます。HPなどで得られる情報はたくさんありますが、この紙面を通して各ブロックの活動や有益な情報を皆様のお手元に直接お送りしたいと取り組んでいます。ゴミ箱に入れられることのないよう紙面の充実を図ってゆきたいと考えております。広報誌について皆様からお意見など頂ければ幸いです。このたび、(株)早川プランニングの早川浩士先生、詩人の藤川幸之助先生のご厚意により著書引用をさせて頂くことになりました。この紙面をお借りして心から御礼を申し上げます。お話は変わりますが、今、高齢者居住ハウスに私の両親が暮らしております。父親88歳、母親85歳、母はアルツハイマー型認知症を患いひとときより、ずいぶん認知症の症状がすすんでいるような気がしています。昼食の時間、私を見つけては笑顔で視線を向けてきます、それに応えようと視線をかえす自分の心は何か「切ない」思いがしてなりません。やがて来る死や命の愛おしさを感じたり、そこから逃げられない心に鼓舞する自分の姿があります。先日、次のような知らせに触れ、同じような「切ない」気持ちにさせられました。認知症の男性当時91歳(常に介護が必要な認知症自立度iv)が線路内に立ち入り、電車と接触した死亡事故で、家族らの安全対策が不十分だったとしてJR東海が、列車が遅れたことへの損害賠償訴訟の判決で、平成25年8月9日名古屋地裁は、妻と長男に請求金額約720万円を支払うよう命じたというのです。妻が目を見失った隙に男性が外出し、事故が発生したとして「妻には見守りを怠った過失がある」と認定。別居している長男も「事実上の監督者」とし、「徘徊を防止する適切な措置を講じていなかった」とされました。家族らは、妻は事故当時85歳で、常時監視することが不可能だったと主張しましたが、裁判長は介護ヘルパーを依頼するなどの措置をとらなかったと指摘。「男性の介護体制は、介護者が常に目を離さないことが前提となっており、過失の責任は免れない」とされました。これは何を意味するのでしょうか。24時間監視をしない、できれば玄関にかぎをかけ、出られないようにすべきと言っているように聞こえます。長男には仕事を辞めてでも家族の面倒を見るべしと言っているように聞こえます。自己(家族)責任で解決を求めるには余りにも認知症に対する理解がないことを示していると思ってしまう。もはや老老介護は限界があります。家庭での介護には限界があります。近隣住民、ボランティアなどのインフォーマルサポートや公的機関や医療機関、フォーマルサービスが円滑に活用されればご本人や家族への支援に必ず役に立っていたに違いありません。どこまで知らされていたのでしょうか。地域社会の応援がもっと問われていかなければ「地域包括ケア」の事業など絵に描いた餅ではないでしょうか。一方的にご家族の過失とされるには、「切ない」やりきれない思いがしてしまうのは私だけでしょうか。

編集後記とさせていただきます。 小原陽一

今年も皆で創る日胆ブロック ブロック活動に積極的に繋げてゆきたい

介

今年度の日胆ブロックでは、3回の研修会と
護福祉士模擬試験の企画を立て動き出して
おります。すでに5月27日には新ひだか町にお
いて「平穏死」について全国でご活躍されてい
る長尾和宏先生をお招きし
117名の参加
者が集まりました。GHで支
援をしている私たち
にとっては、
看取りに対
する取り組み
や地域の中
にあるGHと
しての機能
の発揮など
に対し、背
中を後押し
していただ
ける機会に
もなりました。



今後の予定と致
しましては、8月20
日より認知症介護
実践者研修及び
管理者研修が始
まります。また、10
月15日(火)には、
和田行男氏をお
招きして講演会を



開催し、その夜にはライブハウスを貸切にして宮崎
会長、そして
参加者を交
えてのトーク
ライブを行
います。トーク
あり、歌(生
バンド)あり、
お酒ありの
楽しい交流
の時間にも
なるよう
準備して
おります。11
月13日(水)
には、藤川幸
之助氏をお
招きして『命
が命を生かす
瞬間(とき)』
(仮称)と題
し講演会を
行います。参
加者の心に
響く素敵な
時間になる
こと間違い
ありません。
どちらも時
期が来たら
ご案内致し
ますので、
是非お申し
込み下さい。
介護福祉士
模擬試験に
関しまして
は、アンケート
による希望
者のみへご
案内になり
ますが、10
月と12月に
開催致し
ます。特定
非営利活動
法人 介護ホ
ームどんぐ
りの家 日胆
ブロック事
務局 荒川 裕
貴



準備して
おります。11
月13日(水)
には、藤川幸
之助氏をお
招きして『命
が命を生かす
瞬間(とき)』
(仮称)と題
し講演会を
行います。参
加者の心に
響く素敵な
時間になる
こと間違い
ありません。
どちらも時
期が来たら
ご案内致し
ますので、
是非お申し
込み下さい。
介護福祉士
模擬試験に
関しまして
は、アンケート
による希望
者のみへご
案内になり
ますが、10
月と12月に
開催致し
ます。特定
非営利活動
法人 介護ホ
ームどんぐ
りの家 日胆
ブロック事
務局 荒川 裕
貴



管理者パワーアップ研修 11月6・7日 コーディネーター委員会

パワーアップ Part II

今

年もコーディネーター委員会では、「管理者
パワーアップ研修」を企画致しました。講師に
は、昨年ご講義いただきました(株)アムプラ
ザの坂井礼子先生をお招きし、11
月6・7日に札幌市千代田ビルで開
催致します。昨年の
受講後のアン
ケートにて、ご好評
であったことは
もちろんですが、
その中に「すぐ
行動します」「
すぐ実践します」
の声が多かった
ことが今年度の
開催に結びつ
きました。昨年
度のコーディネ
ーター全



員での企画が、
今年の活動にも
結び付き、それ
が全道各地へと
広がっていく。
とても素敵な
形となつてつな
がっていけるこ
とを



心から嬉しく思
っています。本
当に熱く、そし
てちょっと涙も
ろい坂井先生の
後押しで、そし
て受講者同士
でのふれあいで
自身を高めて
いきたい方は、
是非ご参加
ください。特定
非営利活動法
人 介護ホーム
どんぐりの家
コーディネーター
委員長 荒川 裕
貴

是非ご参加
ください。特定
非営利活動法
人 介護ホーム
どんぐりの家
コーディネーター
委員長 荒川 裕
貴



「ラン伴2013北海道ステージ」

ご協力ありがとうございました。



ラン伴2013北海道ステージを終えて

旭

2013年7月25日早朝、まだ静けさの残る
川の「グループホームゆうあい」前から、Run
Tomorrow(ラン伴)2013のタスキがスタートし
ました。感謝なことに、今年も北海道認知症
グループホーム協会の後援、また北海道認知症の
人を支える家族の会の共催という強力なバックアップを得
つつの開催となりました。ラン伴2013北海道ステージに
ご参加、ご協力くださいました皆様には、心から感謝と
御礼を申し上げます。

札幌から東京までの1200kでタスキを繋いだ昨年の
ラン伴から1年、今年はどこまで走るのか、また今年
はどこがスタートなのかといった
問い合わせや打診を
いただいております。そう
した中、今年
のラン伴2013では
北海道の旭川を7月
25日にスタートし、
10月14日に関西の
大阪城にゴールする
までの1700kでタ
スキを繋ぐという
昨年よりさらに長
い距離での計画を
立てました。その
最初のステージ
である北



海道でのラン伴が、7月25日-28日の4日間で開催
されました。今年で3年目を迎えたラン伴ですが、タ
スキが繋がった北海道のそれぞれの地域には、今年も沢
山の物語がありました。今年
から始まった旭川から札幌
の間では、ラン伴に賛同
して下さった多くの新しい
仲間たちが加えられました。
恵庭市では、今年も市役所
前で市長がタスキを繋いで
くださるとともに、今年
はFMラジオ局がラン伴の中
継をしてくださいました。
また苫小牧市でも、市長と
キャラクターマスコット(ト
マチョップ)が

夕

スキを繋いでくださいました。そして驚いたこと
に、そのキャラクターは認知症の方が作られ
たラン伴と記されたオレンジのシャツを着て
くれたのです。人から人へ、そして地域から地域へと
繋がれていくタスキは、3年目を迎えた今年も、しっ
かりとそれぞれの地域ごとに、それぞれの思いや
物語とともに、人と地域とをつなぎながら走り抜
けていったと感じます。ラン伴の目的は、私たちが
暮らす地域の中には支えを必要としている認知症の
人、その家族がたくさんいるということ、同じ地域に
暮らす人達に知ってもらおうこと。また、地域に暮ら
している



認知症の人やご家族にも、暮らして
いる地域の中にはたくさんの仲間
たちがいて、力を貸してくれる
ということを知ってもらおうこと。
そして、認知症になっても安
心して暮らしていける町とはい
ったいどんな町なのかを、すこ
しでも多くの人たちに考えて
もらうことにあります。ラン伴
北海道ステージに参加して
くださった地域を
みると、認知症の人もそう
でない人も、また大人も子
供も、誰に強制されるわけ
ではなく、自らの意思で参加
し、それぞれのスタンスで
認知症のことを考えてくださ
っていることを感じます。こ
うしたタスキが、これからも
北海道の中でますます強い
絆となつて繋が
れていくことを願ってやみ
ません。



ラン伴2013は、津軽海峡を越えて
自転車でも八戸に届けられ、
9月13日から東北ステージ
へと引き継がれます。最後
の大阪でのゴールまで、皆
様の応援とお力添えをいただ
ければ幸いです。NPO法人
認知症フレンドシップクラブ
代表 井出 訓



実践者、管理者、実践リーダー研修 日程と開催都市

認知症介護実践研修 (実践者研修)

- 第1回(札幌市) 終了
平成25年5月14日～17日及び6月10日
- 第2回(帯広市) 終了
平成25年6月27日～30日及び7月22日
- 第3回(旭川市) 終了
平成25年7月16日～19日及び8月8日
- 第4回(苫小牧市)
平成25年8月20日～23日及び9月17日

認知症対応型サービス 管理者研修

- 第1回(札幌市) 終了
平成25年6月10日～11日
- 第2回(帯広市) 終了
平成25年7月22日～23日
- 第3回(旭川市) 終了
平成25年8月8日～9日
- 第4回(苫小牧市)
平成25年9月17日～18日

認知症介護実践研修(実践リーダー研修)

- 第1回(北見市) 終了
第1週目平成25年5月28日～6月1日
第2週目平成25年6月11日～6月15日
報告まとめ平成25年7月19日
- 第2回(釧路市)
第1週目平成25年9月2日～9月6日
第2週目平成25年9月9日～9月13日
報告まとめ平成25年10月21日
- 第3回(札幌市)
第1週目平成25年11月18日～11月22日
第2週目平成25年11月25日～11月29日
報告まとめ平成26年1月7日



日程等変更になる場合がございます詳しくはHPをご覧ください。

ターミナル研修、計画作成担当者研修 日程と開催都市

ターミナルケア研修

- ターミナルケア研修Ⅰ(札幌市)
平成25年9月28日(土)
- ターミナルケア研修Ⅱ(札幌市)
平成26年1月18日(土)

計画作成担当者研修

- 計画作成担当者研修(札幌市)
平成25年12月6日(金)



継続は力なり、 様々な絆が生まれ、活動の連携を目指して 道北ブロック

7月25日RUN伴2013北海道に有志の皆さんと一緒に参加してまいりました。今年のRUN伴は、旭川のグループホームゆうあいから出発となり、たすきを旭川とその近郊の皆さんでつないでまいりました。グループホームの仲間の他、一般市民、包括支援センター、小規模多機能事業所、居宅支援事業所、訪問マッサージなど様々な事業所の方々の支援を受けて共に走り始めております。旭川チームの担当は滝川までの区間ですが、元気のいい方はこれを超えて70キロ走破しております。普段走っていない私でも、雰囲気には押し込まれ参加してまいり、どうなることかと思いましたが、短くも1キロを走ると不思議と参加した満足感と走り切った満足感を皆さんと分かち合うことが出来ました。個々の思いがみんなの共有の思いに変わり、これからの色々なきずなが生まれてきたように感じております。「お疲れ様!」「感謝!」の言葉が自然と出てまいり



す。今後もこのような絆を大切にグループホーム活動や連携が取れる道北ブロックを目指してまいります。道北ブロックの認知症介護のレベルアップの取り組みとして、毎年認知症実践者研修を旭川で開催しております。また認知症実践者リーダー研修も一年おきに開催しております。この取り組みが5年間続いております。継続は力なりと申しますが、研修参加者の皆さんが、この研修を通じて今以上のスキルを身に付けて、またさらなる飛躍のきっかけになって頂きたいと切に願っております。この他にも道北ブロックではSOSネットワークの構築を継続的に進めております。また今年最大のイベント10月5日の事例発表北海道大会in旭川の準備など精力的に取り組んでおります。この大会の開催には各ブロックよりいろいろとご支援を頂いており大変感謝しております。当日はたくさんの皆様のご来場を心よりお待ち申し上げます。



道北ブロック会長 グループホーム花
施設長 森山伸広

ただの視線ではない
まなざしにはその視線をおくる者の
心がうつしだされている
まなざし
向ける者と向けられる者
向けられる者と向ける者
母と子のように
微笑みでありたい
空と海のように
澄んでいたい
まなざし
言葉をこえて
意味をこえて
見つめることで
静かに愛しあいたい
まなざし
人の体さえもこえて

心臓病を抱えながらも父は黙々と母の介護をした。その合間合間に見せる母への父のまなざし。優しく抱きしめるように、父は母を笑顔で見つめていた。父が亡くなってから、母の介護を引き継いだ。父が生きていたときは、母の介護はまかせっきりだったの。介護の方法なんて何にもできないけど、母を優しく見つめることだけは忘れまいと思った。辞書によると、この「まなざし」という言葉は単なる視線ではない。その視線で物を見るとき、その人の目の表情という意味も含んでいる。つまり、視線にその視線をおくる者の心をこめることができるということ、この「まなざし」という言葉は教えてくれる。ということ、まなざしにも冷たいものがあるだろうが、父が母を見つめる優しい笑顔と重なり、私にとって「まなざし」という言葉はいつも温かい。

引用著書「まなざしかいご」(中央法規)
著者 詩人 藤川幸之助

研修、実践、そして地域貢献へ 後志ブロック

後志ブロックより全道の仲間の皆様へ、地道ではありますが後志ブロックの昨年の報告をしたいと思います。

活動となりますとやはり「研修」等が中心となりますが、その視座とするところは「人間としての尊厳性」であり、そこから広角的に認知症を抱え様々な困難性を有する生活者の方たちへ真摯に向き合いながら、この理念と実践を太く継続していくことが後志ブロックの基本であると考えています。

これらの研修実践が後志ブロック全体の介護理念、技術を高め、ひいては地域福祉への踏み出しでもあると思っています。

昨年は現在介護者が大変その対応に苦慮している「レビー小体型認知症」と「前頭側頭型認知症」について研修会を開きました。このテーマはブロックの



役員がボトムアップ的に総括したテーマです。レビー小体型認知症については講師に(有)青い鳥(高知県)の苅谷氏、前頭側頭型認知症についてはグループホーム仁木やすらぎの里の平山氏に講演をお願いしました。参加者も関心のあるテーマでもあるためか平均70名と多数の参加者でした。

また毎年開催されている事例発表北海道大会には「二つの事業所」が発表し、全道レベルでの研究交流を深めました。

後志ブロックでは研修ごとに「小樽認知症の人を支える家族の会」「余市グループホーム連絡協議会」その他の関係福祉団体等とも連携しながら地域福祉へ微力ながら貢献をするためにも互恵的ネットワーク活動もしています。



後志ブロック事務局
鈴木啓仁

若年認知症研に参加して 自分たちのケアの見直しが必要

若年認知症研修に参加して
若年認知症ケアの先駆者である

武田純子先生が3年かけ実践されてきた実際の若年認知症ケアを拝聴させていただきました。その方の生活や社会参加を重視し生き生きとした活気ある人生を送ってもらうための個別ケアを実践され利用者様が満足されている姿を見て改めて、人の生活を預かる者として自分たちのケアの見直しが必要だと実感させられました。その一方で若年性認知症の方と認知症高齢者の方と一緒に介護する



のはなかなか難しく若年の方と高齢者の方の分業化が必要ではあるが札幌でもなかなか人数が集まらない現状を聞き地域として協力体制を築く事を考えていかねばならないとも感じました。今回の研修は時間が短いのもあり3年間の追跡調査の一端垣間見ることは出来ましたが実際にGH福寿荘さんにお伺いし若年性認知症の利用者様とひと時を過ごし自分達の介護を見直したいと考えています。為になる研修をありがとうございました。



グループホームコスモス
施設長 高橋芳美

複数事業所連携事業にユニットを結成 キャリアパス支援研修事業 道東ブロック

道

平成25年度 第一回研修7月10日
東ブロック中標津支部は、平成23年度の複数事業所連携事業にユニットを結成し今年度のキャリアパス支援研修事業で3回目の事業になります。



株式会社育成が、平成22年10月別海町にグループホーム・小規模多機能ホームを開設した時、郡部の介護職員が釧路・札幌での研修は時間的・金銭的な問題で研修を受ける機会が少ない、是非地元での研修を行いたいと道東ブロックに相談し理解と協力を頂き結成されました。出来るだけたくさんの介護員が研修を受ける事が出来、介護員の質が向上することを目指しています。



5事業所で話し合いを重ね今年度は4回の研修を計画し、第1回目は指導に当たる「リーダー管理者のための研修」を佐々木幸子氏を講師に迎え行いました。

26名の参加者はグループワークを中心に話し合う時間、個々で考える時間を持つ事で、リーダー管理者としてどうあるべきかに気付き、その為には何をすべきかを学びました。終了後のアンケートの回収率は100%、集計結果では、知識を深める大切さを痛感した。自分を振り返る機会ももてた。他事業所との交流が持て意見を聞く事ができた等用紙いっぱい

の記述があり、研修で得られたものは確かにあったと思います。研修で学んだ事はリーダー管理者が各施設に戻って、毎日の業務の中で活かされることだと思います。



道東ブロック中標津支部
グループホーム育成会まごころ
管理長 末廣志津子

常在学場

学ぼうとする意志さえあれば、今自分の在る場所が常に学びの場となるという意味。筆者による造語。

問題意識をもって自ら学ぶ「今日は啓発を受けた！」セミナーを受講した者が折に触れて口にする言葉である。知識を啓き起し理解を深めるのが、「啓発」の意。だが、その出自は「論語の「憤せずんば啓せず、ひせずんば発せず。一隅を挙げて、三遇を以て反らざれば、則ち復せざるなり(述而7)」であることを知る者は少ない。「何事も問題意識をもって自ら取り組む(学ぶ)」という創意や熱意のある者は、たとえ行き詰まった場合でも、その障害や壁を取り除くためのヒントさえ見つければピンと閃くものである。逆に、解決の糸口を見つけ出す粘り強さを嫌う者は、何を教えても無駄なことである。たとえば、四角のモノの一隅だけを示して、残りの三隅を示さず、自分で試行錯誤しながら説明するような意欲を引き出せることが大事である。仮に一隅を教えても、自ら他の三隅を理解することのできないもの者には、再び説き教えることは意味がない」というのが、その意である。

これからの時代を生き抜くトップに必要なものは、京都府中小企業総合センターによる「中小企業支援に関する研究」の論文には、「京都の中小企業に学ぶ」と題して、これらの時代を生き抜くために必要とされる経営者の資質を7点に要約して記している。

一、誠実、正直、謙虚であること。二、歴史を重んじ、先人に習い、その手法を受け継ぐとともに、これをさらに発展させ、今の時代に合ったやり方に変革させてゆく気概とたゆまぬ努力を怠らないこと。三、品質を重んじ、妥協のない品質の維持管理とその向上に努めること。四、技術に強く、技術に精通し、専門的見地に立つて試行能力と判断力を有すること。五、失敗を恐れない大胆な行動力とそれを支える繊細な思考回路を有すること。六、従業員力を十分に引き出せるような環境整備に努めること。七、ユーモアやユニークな視点を欠かせないこと。常に在るところ学びの場、常に学びの場にあり。

引用著書 「99の言葉の杖」出版社(日本医療企画)
著者 早川浩士 (有)有限会社ハヤカワプランニング代表取締役